

次期京都市農林行政基本方針 第1回検討会 《資料編》

1 農林業を取り巻く全国の動向や京都市の状況

- (1) 人口減少と少子高齢化
- (2) 国内の食料流通・消費の変化
- (3) 国内の流通の多様化
- (4) 国内外の木材の需要動向

2 京都市の農林業の現状

- (1) 京都市の農林業の現状
- (2) 地域別の特徴

1 農林業を取り巻く全国の動向や京都市の状況

(1) 人口減少と少子高齢化

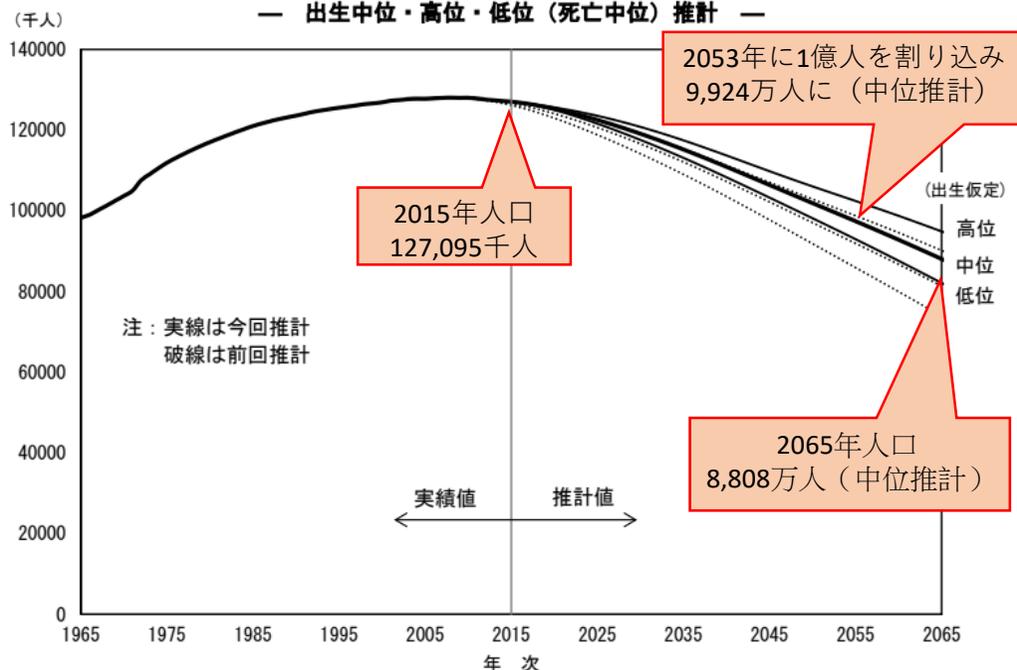
《全国の推移》

- 日本の人口はすでに減少局面に入ってきている。(2010年：128,057千人⇒2015年127,095千人 (▲962千人/5年))
- 2053年には1億人を割り込み、2065年には8,808万人まで減少すると見込まれている。

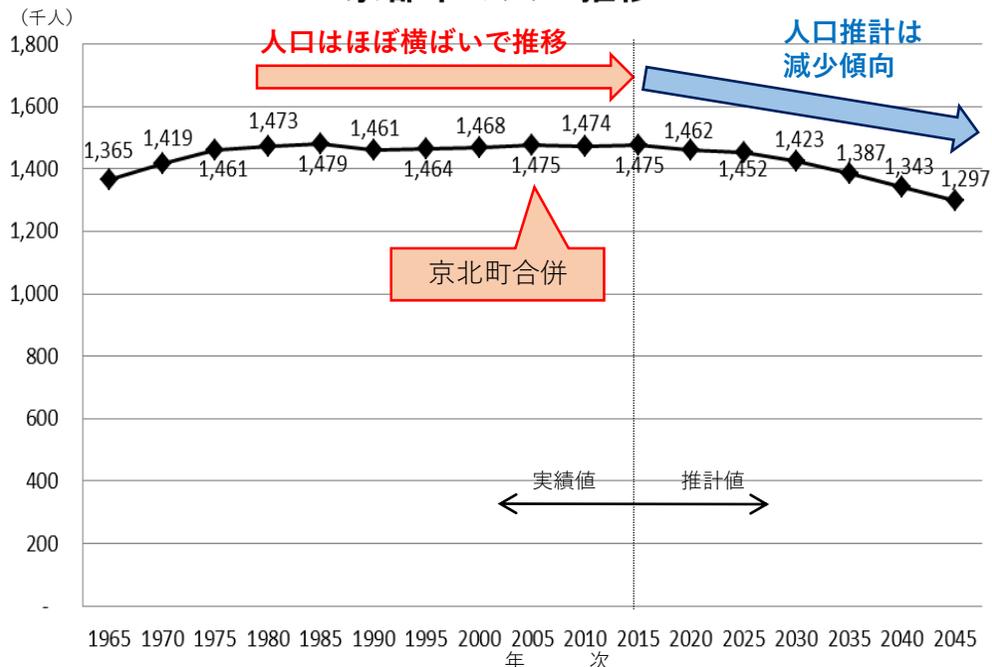
《京都市の推移》

- これまで人口はほぼ横ばいで推移してきたが、2015年をピークに減少に転じると見込まれている。
- 2045年には130万人を割り込み、129.7万人まで減少すると見込まれている。

《総人口（全国）の推移》



《京都市の人口推移》



（出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29（2017）年推計）」）

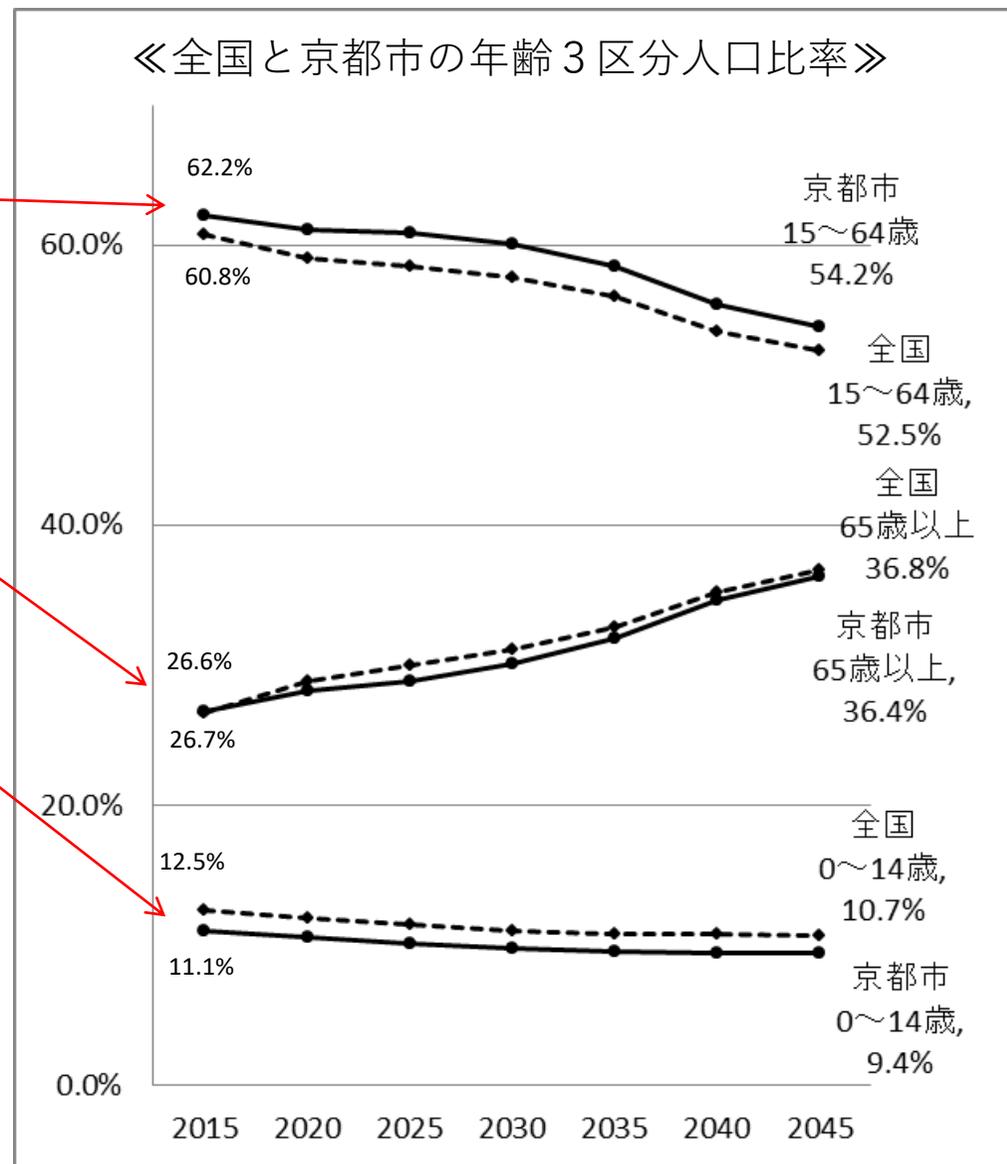
（出典：京都市統計資料（国勢調査）
国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』
（平成30（2018）年推計）

1 農林業を取り巻く全国の動向や京都市の状況

(1) 人口減少と高齢化

- ① 京都市の生産年齢人口（15～64歳）
比率は62.2%→54.2%に減少
（全国よりやや高い）
- ② 京都市の老年人口（65歳以上）
の比率は26.7%→36.4%に増加
（全国よりやや低い）
- ③ 京都市の年少人口（0～14歳以上）
比率は11.1%→9.4%に減少
（全国よりやや低い）

- ◆ 人口減少や高齢化に伴い、**食料需要の減少**が見込まれている。
- ◆ 農業分野では、農地や農業用施設の維持管理を行う活動が停滞しつつあり、今後、さらに**耕作放棄地が増大**し、**水路の泥上などの維持管理作業の1人当たりの負担が増大**すると見込まれる。
- ◆ 林業分野では、間伐や伐採を行う林業労働者が減少しており、今後、さらに**安全に作業を行える林業技術者の確保が難しい状況**になると見込まれる。



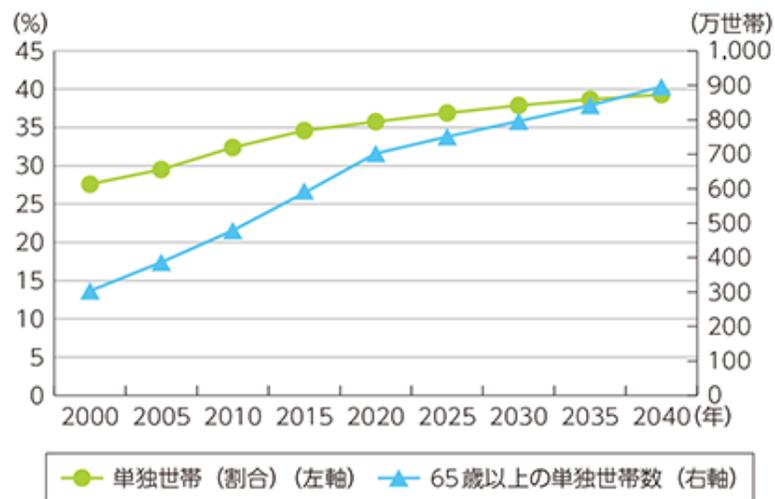
(出典：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』
(平成30(2018)年推計)より作成

1 農林業を取り巻く全国の動向

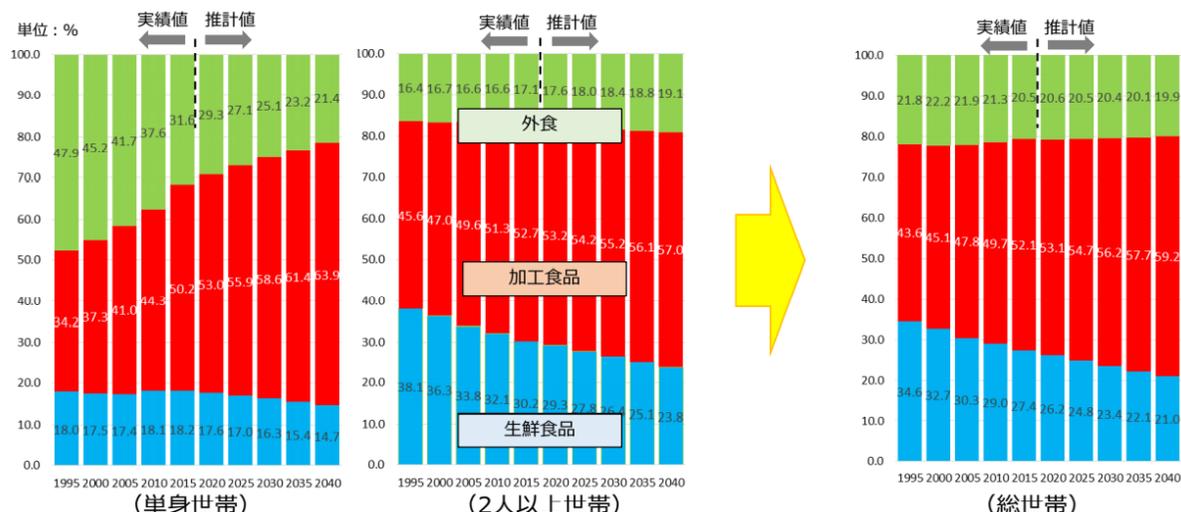
(2) 国内の食料流通・消費の変化

- 日本人の食生活は、家族形態やライフスタイルの変化、多様化に伴い、食事の内容から形態まで、大きく様変わりしている。
- 内食から中食への食の外部化が一層進展し、食料支出の構成割合が生鮮食品から付加価値の高い加工食品にシフトすると見込まれる。
特に、今後シェアが高まる単身世帯で、外食、生鮮食品からの転換により、加工食品のウエイトが著しく増加すると見込まれる。
- また、単身世帯の増加により、小分け・少量化への対応も必要になっている。

《単身世帯率の推移と65歳以上の単身世帯数の推移》
(2020年以降は予測)



《国内消費のすう勢》



(出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計) 2018(平成30)年推計」(2018))

(出典：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計(2019年版)」)

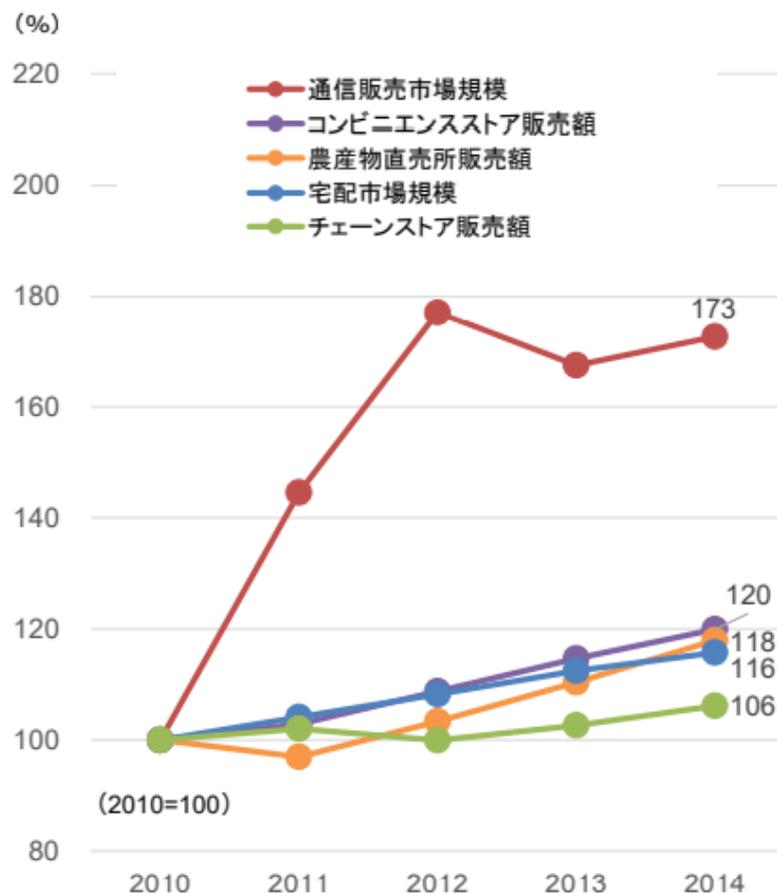
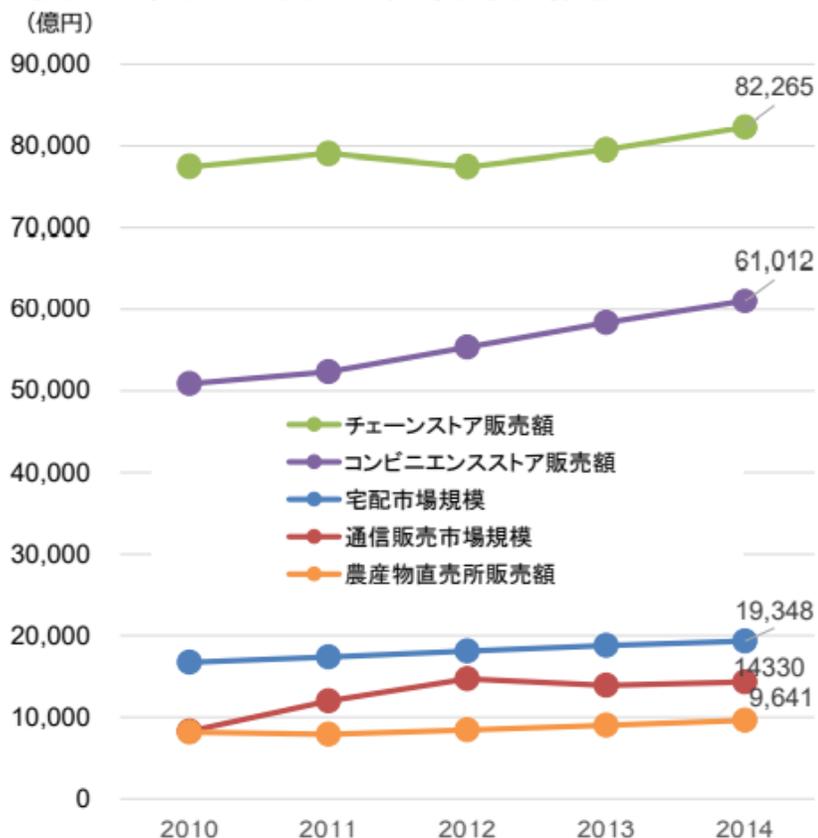
※ 総務省「30年版情報通信白書のポイント」より抜粋

1 農林業を取り巻く全国の動向や京都市の状況

(3) 国内の流通の多様化

- 食品小売業において、大手量販店が最大の地位を占めるが、近年、通販、宅配、直売、コンビニなどの多様な流通形態が伸長しており、**販売チャネルが多様化**している。
- 鮮度や簡便化などの消費者需要の多様化に加えて、ICT等の情報技術が大幅に進展したことにより、これらの**多様な流通形態が伸長**している。

■ 食品の業態別販売額・市場規模の推移



(資料：農林水産省「卸売市場を含めた流通構造について」)

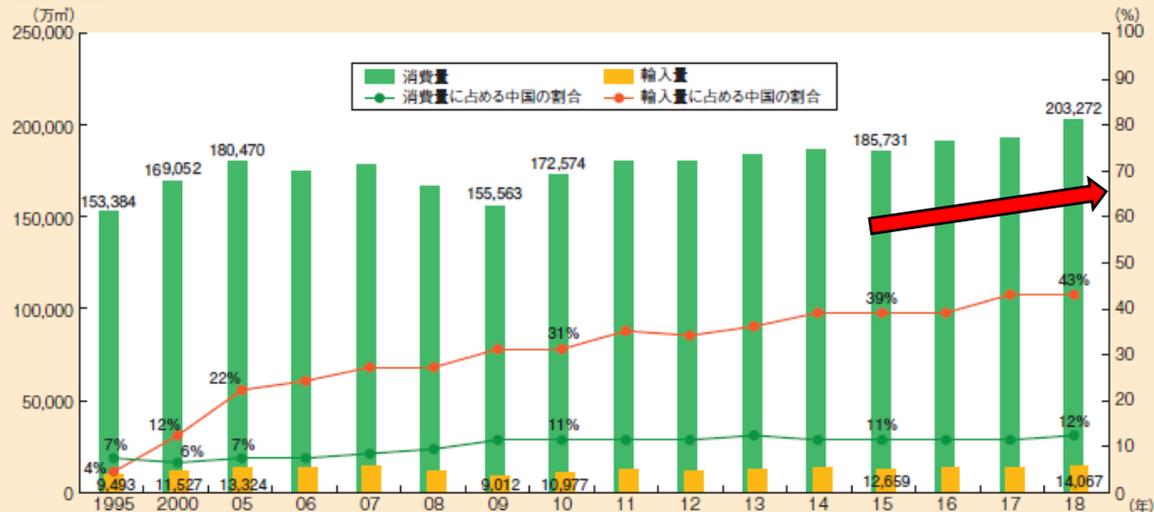
1 農林業を取り巻く全国の動向や京都市の状況

(4) 国内外の木材の需要動向

《世界の木材需要の動向》

世界の木材需要は、中国における木材需要の増大等、主要国の需要動向に伴って、**2010年以降、増加傾向**となっている。

世界の木材(産業用丸太)消費量及び輸入量の推移

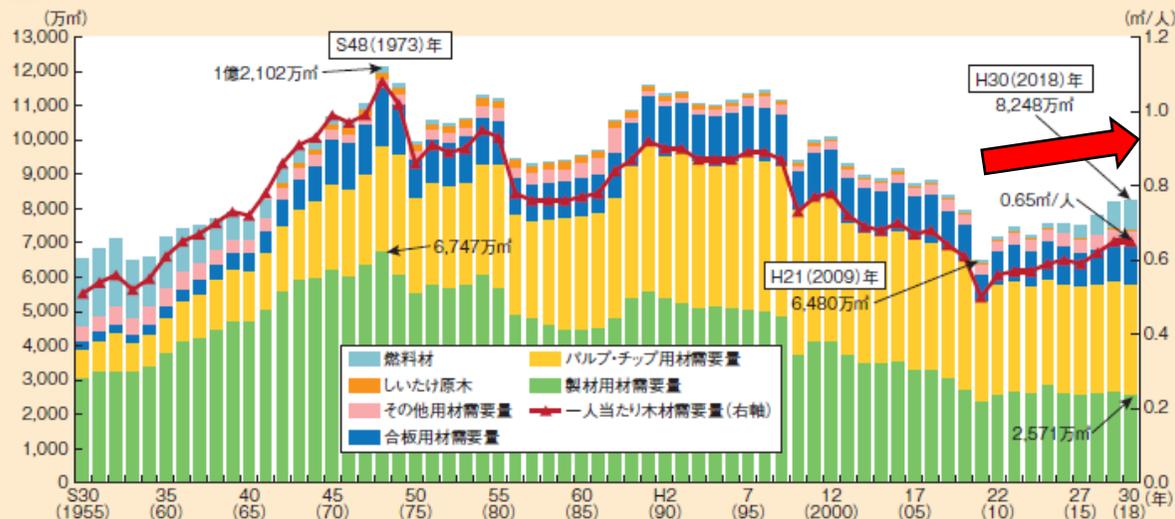


注：消費量は生産量に輸入量を加え、輸出量を除いたもの。
資料：FAO「FAOSTAT」(2020年2月17日現在有効なもの)

《日本の木材需要量の推移》

日本の木材需要量はバブル景気崩壊後の景気後退等により、減少傾向で推移してきたが、近年は**木質バイオマス発電施設等で利用する燃料材が増加**してきている。

木材需要量の推移



注：平成26(2014)年から燃料用チップを「燃料材」に加えている。
資料：林野庁「木材需給表」

※「令和元年度森林・林業白書」より抜粋

2 京都市の農林業の現状

(1) 京都市の農林業の現状

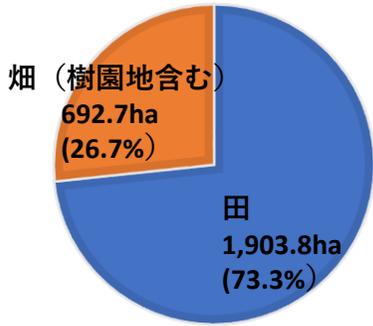
京都市域面積：82,783 ha

うち **耕地面積**：2,596.5 ha (3.1%)

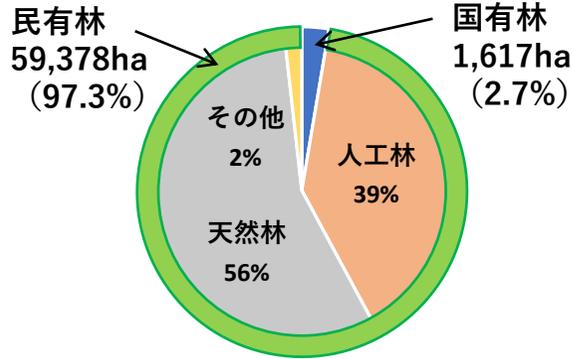
うち **森林面積**：60,995 ha (73.7%)

(出典：H29京都市農林統計資料)

《京都市の耕地面積構成》



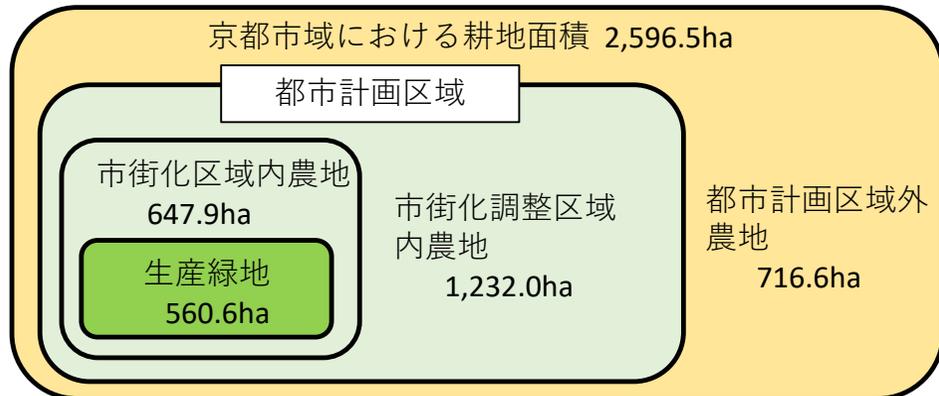
《京都市の森林面積構成》



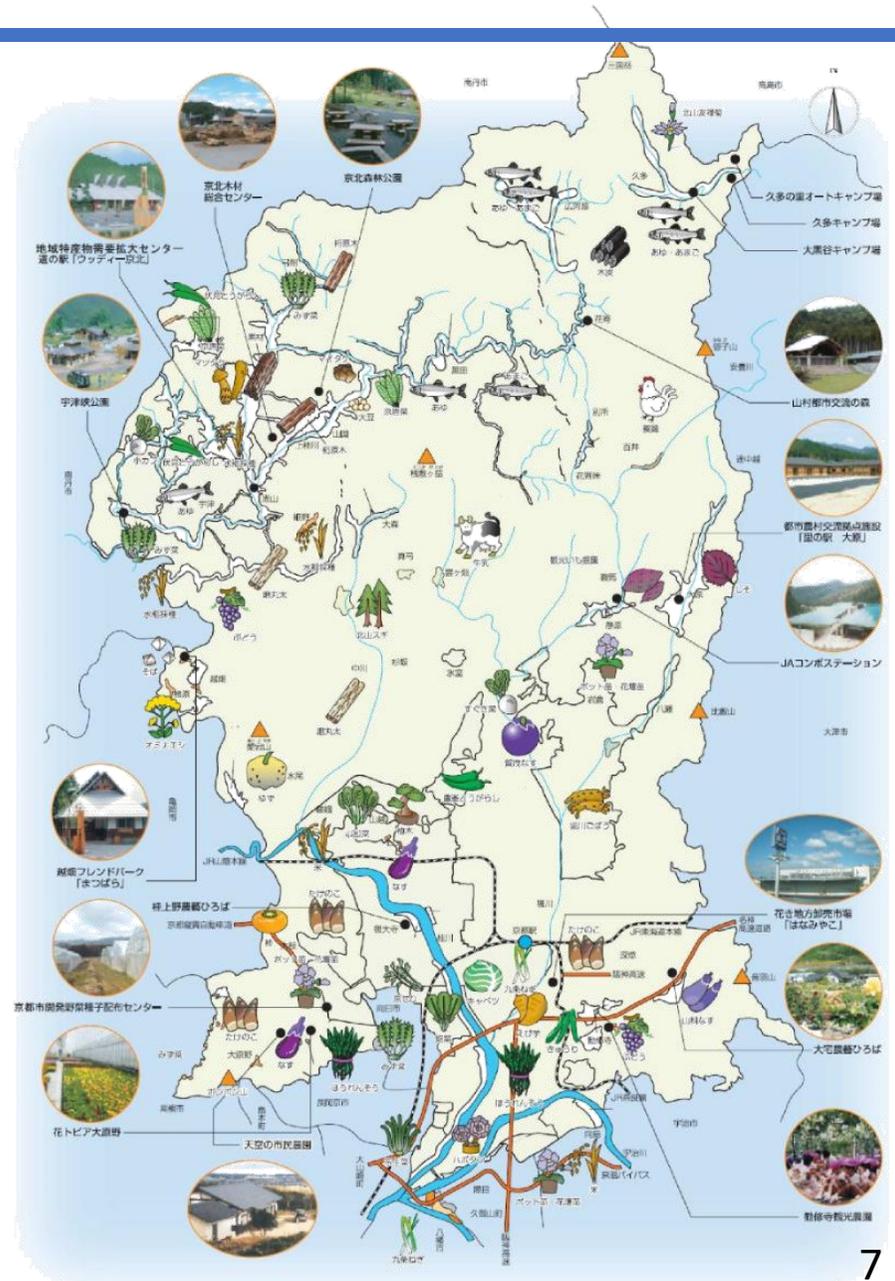
(注) 市内農家が市外に所有する農地は含まない。

(出典：H29京都市農林統計資料)

《京都市域における区域別農地面積》



(出典：H29京都市農林統計資料)



(資料：京都市「京都市農林行政基本方針」)

2 京都市の農林業の現状

(2) 地域別の特徴

■ 京北農林業地域

- ・清流に恵まれており、主に水稲生産が行われ、内水面漁業も行われている。
- ・気候にも恵まれており、京北子宝いもや京北米など特産品が存在している。
- ・古くから京都市中心部への用材供給地として知られ、主にスギの生産が行われている。
- ・市街地からバスで約1時間30分の立地。
- ・宇津峡公園や京北森林公園などの山村交流施設、農家民宿などが点在している。
- ・企業等による地域資源をいかした新たな取組が行われている。

■ 北部農林業地域（越畑・嵯原）

- ・美しい棚田や茅葺き民家等が残り、「にほんの里100選」にも選定されている。
- ・都市農村交流施設等や美しい棚田を維持するための農道・水路の整備が進められ、観光農村による地域活性化を目指している。

■ 北山林業地域

- ・床柱材である「北山丸太」を中心に高い生産技術を有している地域。
- ・北山杉林は一般的な杉に比べ、手間暇をよりかけて育てられるため、独特の美林景観を形成
- ・川端康成の作品「古都」において登場したり、日本森林学会の「林業遺産」に選定されるなど、全国的な知名度を有している。

■ 農業振興地域（水尾・静原・大原・大原野・勸修寺・向島等）

- ・農業振興地域を中心として、水稲、野菜、花き、果樹栽培等多様な農業が展開され、農業基盤整備も積極的に進められている。
- ・体験農園や特産物育成等、地域の農業資源を活かした特色ある地域づくりが進められている。

■ 北部農林業地域（左京区花脊以北）

- ・森林など豊かな自然と松上げなど伝統文化が数多く残っている。
- ・日本一背の高い木（62.3m）である「花脊の三本杉」が現存している。
- ・地域資源をいかした農家民宿やキャンプ場などが点在している。
- ・花脊にある山村都市交流の森を中心に、都市農村の交流による地域活性化を目指している。

■ 近郊林業地域

- ・市街地に隣接し、京都の美しい自然的景観の源泉となっている地域。多くが風致地区や歴史的風土特別保存地区に指定されている。
- ・「京都一周トレイル®」（京都の東南、伏見桃山から、比叡山、大原、鞍馬を経て、高雄、嵐山、苔寺に至る全長約83.3キロのコース）では、多くの観光客や市民に親しまれている。

■ 市街化地域

- ・市街化区域農地は、市内全農地の約2割強を占め、その内の約86%が生産緑地に指定されている。
- ・この地域は京の伝統野菜など昔ながらに野菜作が盛んで、生産性の高い集約農業が営まれ、市民への新鮮な農作物の供給とともに、都市の緑地空間として市民生活に極めて重要な役割を果たしている。

